



本山リハビリテーション病院

リハビリテーション科

明倫ヘルスケアグループ

**Motoyama
Rehabilitation
Hospital**

WE ARE ONE

共に未来を拓く

「その人らしく生きる」
を支え続けるために、

わたしたちはともに
医療と福祉から地域の未来を拓きます。

リハビリテーション科は、
理学療法士（PT）44名、
作業療法士（OT）28名、
言語聴覚士（ST）15名
計87名（2024年4月現在）の職員が
回復期病棟、障害者・一般病棟へ専属配置され
1日も早い在宅復帰、社会復帰を目指し
365日リハビリを行っております。

リハビリテーション科

概要





特徴

- 5階に設けたリハビリホールは日差しで明るく、開放的な作りになっております。
- 各病棟にもリハビリが行える多目的室を設け、当院でのリハビリテーションのゴールに合わせた環境でのリハビリテーションが可能となっています。



全室個室により 自宅環境に近い環境で ADLの向上を目指す

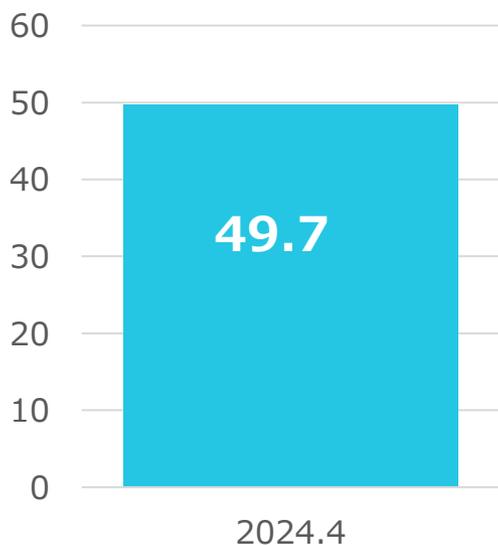
日常生活動作のどの場面においても
個別性に応じた関わりが可能となります。



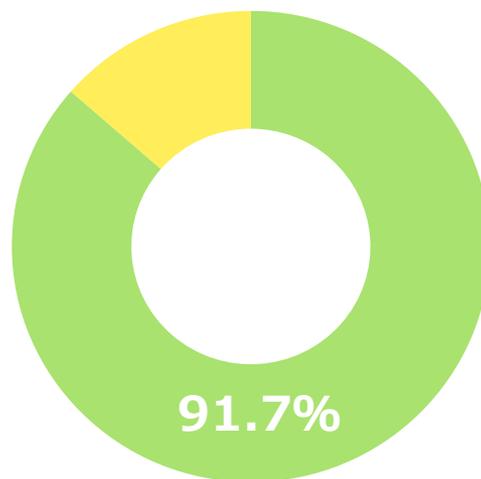
リハビリテーションに関わる実績

退院後生活を見据えたリハビリテーションの実施により高い実績を維持しています。

アウトカム



2023年度在宅復帰率



2023年度FIM改善率



資格

- 認定理学療法士
- 認定作業療法士
- 認知症臨床作業療法士
- 認定言語聴覚士
- 3学会合同呼吸療法認定士
- 回復期セラピストマネージャー
- 認定園芸療法士
- 福祉用具プランナー
- 国際PNFベーシック
- 国際PNFアドバンス
- JIMTEF災害医療研修
アドバンス修了
- 福祉住環境
コーディネーター
- 認知症ケア専門士
- 地域包括推進リーダー
- 介護予防推進リーダー
- フレイル対策推進マネージャー
- LSVT-BIG
- LSVT-LOUD
- AMPS
- アクティビティインストラクター
- MTPSSE 修了
- 介護口腔ケア推進士
- 車椅子安全整備士
- 介護食コーディネーター
- 健康咀嚼指導士
- 臨床実習指導者講演会修了者
- 認知症ライフパートナー
- 福祉用具プランナー
- 地域リハ塾 受講修了
- ディサースリア認定セラピスト
- JRAT Dスタッフ

資格取得を応援する補助制度もあり、なりたいセラピストに向けて自己研鑽に励むことができる環境です。





当院で採型を行い、
完成まで何度も義肢装具士と話し合いながら
長く使える装具の完成を目指します。

義肢装具士との連携

装具や義足の作成を業者特性に応じて依頼し
患者様に合ったものを繰り返しフィッティングして作成





設備

当院が所有するリハビリテーションを助ける機器を
紹介します。





HAL (下肢)





HAL (腰部)



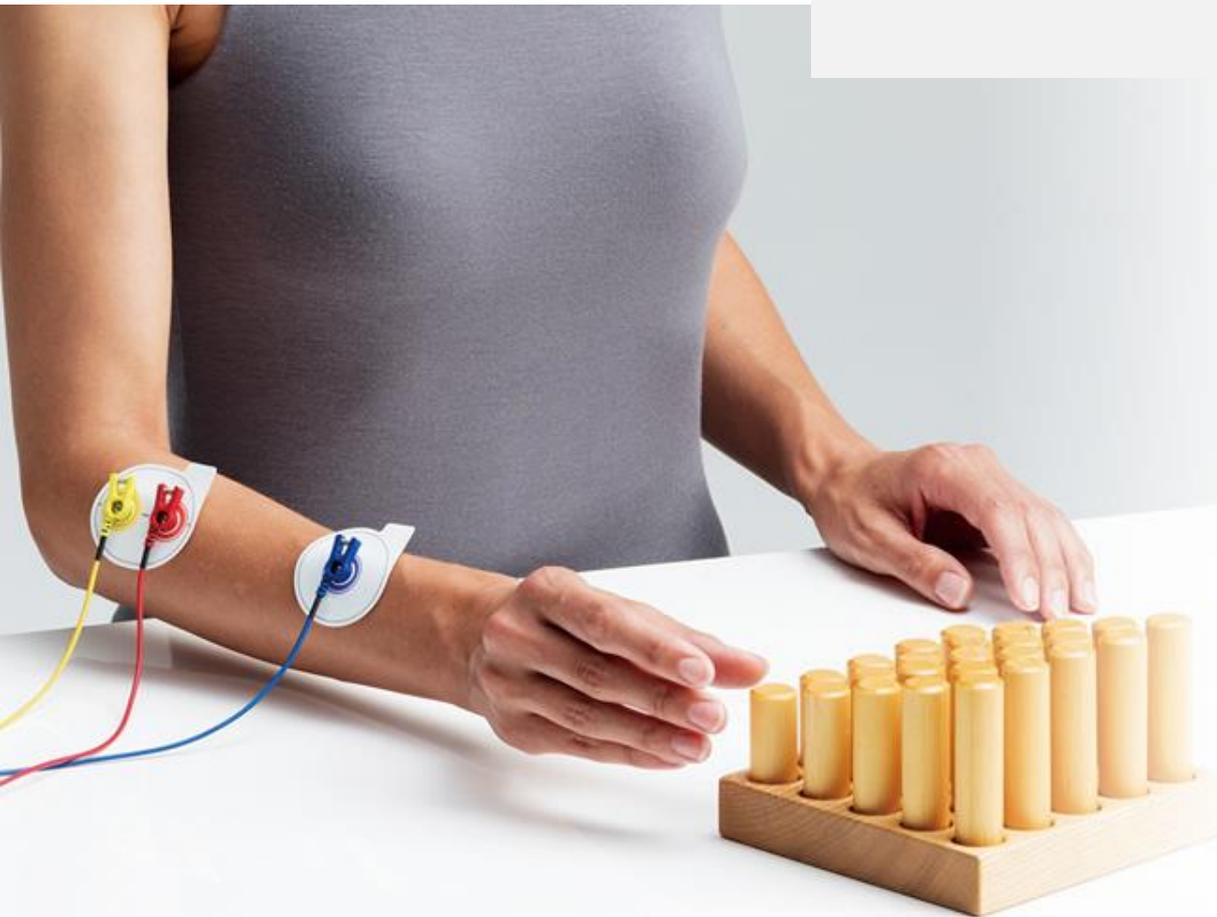


歩行分析装置

(ORPHEANALYTICSMEDICAL)



IVES





いかに経口摂取を維持するか、
非経口から経口に移行するためには
どうすれば良いか医師と話し合いながら
実施しています。

嚥下造影検査 VF

言語聴覚士が主体となって
誤嚥の有無、姿勢の調整、食形態の選定を実施



Gentle Stim



嚥下障害の特徴に応じて
機器を選定し、嚥下機能の向上を促します。



Vital Stim





TMS





関連施設との連携

ZOOMを用いて情報共有を行い、
入所直後からの生活しやすさをサポートします



本山おしゃべりCafe
コミュニケーションを楽しむ社会参加の場を提供します

1 外来やデイ以外の時間で楽しみながら言語訓練を受けてみませんか？
集団/個別の両方に対応可能です

2 WE ARE ONE 共に未来を拓く
「その人らしく生きる」を支えるために、わたしたちはともに医療と地域から地域の未来を拓きます。
利用して下さる方のニーズに合わせて社会参加を支援しています

3 第2土曜日 13:00-14:30
参加費は1回1500円
飲み物とお菓子、テキスト代を含みます

問い合わせ先
TEL (078)412-8080
受付時間 9:40-17:30
本山リハビリテーション病院
言語聴覚士 保井・小林



本山おしゃべりCafé



失語症者の退院後を支える取り組み

失語症者に対する社会参加支援を月に1回実施しております。



教育制度

個々の成長に合わせたお互いのスキルアップを
目指す手厚い仕組みを目指しています



職員（トレーニー）1人に対し、1人ずつ先輩職員（トレーナー）を配置する、On the Job Training（OJT）が主体



OJTは新人職員などに必要な新しい知識やスキルを、育成担当の先輩職員が職場での実務を通じて指導する事で、その業務に必要な知識や経験を養っていく方法をとっています。



		1年 2年	3年 4年	5年 6年
キャリア ステージ (年数・経験年数のめやす)		ステージⅠ(1~2年)	ステージⅡ(3~4年)	ステージⅢ(5~6年)
キャリア開発の課題		組織へのコミットメントと専門職としての展望 専門職としての将来への準備	職種間コミュニケーションと専門職としての自己効力感 キャリア開発の定着	チームのリーダーシップと専門職としてのやりがい 継続したキャリア開発
能力	主な構成要素	指導のもとに臨床実践ができる	(自立して)臨床実践ができる	臨床実践の指導ができる
臨床実践能力	<ul style="list-style-type: none"> ◎対象理解・アセスメント ◎病態生理と診断 ◎急性期合併症の予防 ◎安全管理 (リスク管理・インシデントの対応) ◎廃用症候群の予防 ◎生活再構築の支援 ◎回復支援のマネジメント ◎早期離床と基本動作支援 ◎ADL拡大・自立への支援 ◎各障害の回復支援 ◎再発予防・健康管理 ◎退院支援と家族支援 ◎社会復帰への支援・地域連携構築 ◎社会資源の活用 	<ol style="list-style-type: none"> 1.疾患・障害を理解し、評価ができる <ul style="list-style-type: none"> □ 医学的診断名を理解する □ 医学的診断名に対して評価ができる 2.問題点の抽出、介入計画の立案ができる <ul style="list-style-type: none"> □ 問題点の抽出ができる □ 治療計画の立案ができる □ 報告の作成を追加 3.医療安全・感染予防・防災対策の基本的な実践ができる <ul style="list-style-type: none"> □ 医療安全の基本的な実践ができる □ 感染予防の基本的な実践ができる □ 防災対策の基本的な実践ができる □ 問題発生時に的確な対応ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1.個性をふまえたアセスメントができる <ul style="list-style-type: none"> □ 在宅・施設等、退院後の生活をイメージできる □ 退院先に合わせた支援ができる 2.多職種と連携した活動ができる <ul style="list-style-type: none"> □ 病棟と連携がとれる □ 他のセラピストと連携がとれる □ 災害時にBCPに沿って多職種と役割分担ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1.リハビリの実践モデルとなり指導的役割ができる <ul style="list-style-type: none"> □ 各病期における基本的なリハビリを行うことができる □ 各病期における基本的なリハビリを示すことができる □ 各病期における基本的なリハビリを指導することができる 2.倫理および医療安全上の諸問題に対応できる <ul style="list-style-type: none"> □ 医療安全の基本的な実践を指導できる □ 感染予防の基本的な実践を指導できる
対人能力	<ul style="list-style-type: none"> ◎コミュニケーションスキル ◎組織内外との折衝能力(交渉力) ◎連携能力 ◎退院支援と地域支援構築 ◎社会資源の活用・ネットワーク 	<ol style="list-style-type: none"> 1.問題に対して他者(先輩)へ意見をもらうことができる <ul style="list-style-type: none"> □ 自分の考えを他者に分かりやすく伝えることができる □ 周囲の意見に耳を傾け、協力して業務を遂行する 	<h1>キャリアアップ指標</h1>	
		<h2>本山リハビリテーション病院ver.</h2>		
研究能力	<ul style="list-style-type: none"> ◎研究の意義・目的・方法 ◎研究活動の実践 ◎文献検索・購読(クリティーク) ◎症例・事例報告 ◎学会発表(プレゼンテーション) ◎誌上发表(論文作成) 	<ol style="list-style-type: none"> 1.研究の基礎知識を学び、文献活用ができる <ul style="list-style-type: none"> □ リハ勉強 □ 新人発表 	<ol style="list-style-type: none"> 1.研究の成果について部署内で発表することができる <ul style="list-style-type: none"> □ リハ勉強や伝達講習、症例検討などで発表できる 	<ol style="list-style-type: none"> 1.研究の成果について法人内で発表することができる <ul style="list-style-type: none"> □ 研究発表、TQMなどで発表できる
指導(教育)能力	<ul style="list-style-type: none"> ◎臨床モデルの実践 ◎実践の質の向上活動 ◎臨床実践における教育 臨床実習指導 職場の後輩育成 ◎相談・指導 ◎教育心理 ◎研修会等における教育(講師) 	<ol style="list-style-type: none"> 1.臨床実践における疑問、不確かな知識・技術を明確にできる <ul style="list-style-type: none"> □ 知識・技術・技能の向上に努めている 	<ol style="list-style-type: none"> 1.新人職員に対し、基本的な臨床実践の一連のプロセスを指導できる <ul style="list-style-type: none"> □ マニュアルを理解し、指導を行うことができる □ 退院支援までのプロセスを理解できる 2.後輩や学生に対して、専門職としての指導ができる <ul style="list-style-type: none"> □ 学生や後輩等が自己決定できるよう支援できる 	<ol style="list-style-type: none"> 1.チームの教育活動を企画・運営ができる <ul style="list-style-type: none"> □ 臨床実習指導者講習を受講する □ 臨床実習指導者として学生教育に関わる □ 新人研修の講師ができる
	<ul style="list-style-type: none"> ◎他職種との協業・連携推進 ◎組織マネジメント 	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会人(医療人)としての自覚をもち、行動(報告・連絡・相談)ができる <ul style="list-style-type: none"> □ 委員会活動やボランティア活動に主体的に参加できる 	<ol style="list-style-type: none"> 1.多職種で話し合い身体抑制・安静度等、安全と尊厳について考えることができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1.組織・チームの目標達成に向けて主体的に行動できる <ul style="list-style-type: none"> □ 個人日理シートを用いた部署日理を達成することができ

各経験年数ごとに到達すべき目標を示し、自己を振り返れる指標を作成しています。



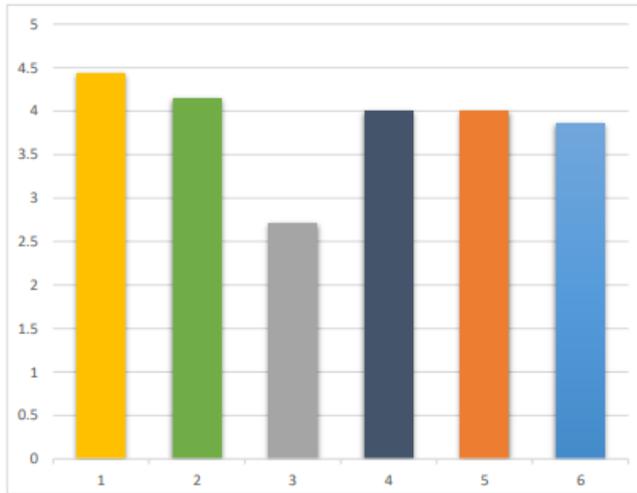
OSCE試験内容

レベル1 試験
(15分)
いずれか3項目

PT：面接、VS測定、形態測定、ROM、
OT：面接、VS測定、形態測定、ROM、
ST：面接、VS測定、嚥下機能評価

レベル2 試験
(15分)
3項目

PT：起居・移乗介助、歩行評価・介助
OT：起居・移乗介助、更衣動作評価・拍等
ST：起居・移乗介助、失語症検査 (SLTA)



受験者に対する
オリエンテーション

- OSCE実施の目的・意義の説明

OSCE

コミュニケーションスキルを重要視した基礎的試験

PT症例

氏名・年齢・性別	模擬患者名を使用	81歳、性別は模擬患者に準ずる
現病歴	平成30年5月7日に働いていた駐輪所で左半身の脱力を認める。1時間ほどその場から動けず、利用者に発見され近医に救急搬送される。右皮質下出血を認め、精査の結果高血圧と内服していた。抗血小板薬によるものと考えられた。高圧剤内服により保存的に治療。その後状態安定したため、平成29年6月2日に当院転院となる。当院での画像所見では右前頭葉の後方皮質下に出血を認める脳室穿破を伴い、一部側頭葉に達している。バイタルはN.P.	



臨床能力把握の試み

目的

十分な指導を行う事ができる臨床能力を有しているか

方法

模擬症例問題を用いて予後を予測し、目標の設定とリハラムの立案をレポート形式で行う

評価項目

予後予測が出来ているか、病態を把握できているか、ICF者を捉えられているか、数値で表せる具体的な目標が設根拠のあるリハビリプログラムを立案できるか

対象

2025年10月のPT・OTの研修者

評価方

臨床推論

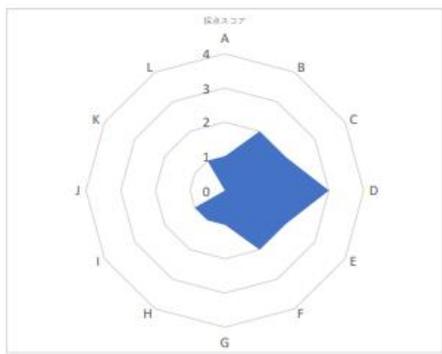
臨床能力の向上のためのスキルアップ研修

試験問題

・ 処方箋

情報提供書

追加情報の提示



72歳の女性。発症後、急性期病院でリハビリ療法・作業療法を開始してくだ

14経過し当院に転院した。自宅

とあるところを家人が発見し、救急病院へ搬送。搬送時は重度の左半身麻痺と重度の感覚障害、構音障害を認めた。CT撮影し、右被殻出血を認めたため入院となる。血腫増大なく神経症状の悪化なかった。保存的加療を行った。意識レベルは清明で、BRS上肢Ⅲ、下肢Ⅲ（伸展はわずかに動く程度）、下肢グリップで杖を必要とし、一部介助でBarthel Index 60点

・ 背景因子

・ 夫、子供と4人暮らし
既往は左変形

・ 主訴

・ 自分の事は自分

予後予測のための仮説の立案

来て行っており、日中はスリープがあった。

予後予測、目標設定、の

発症前の様に家事を行いたい



【評価項目】

肺画像：右肺の縦郭気腫と繊維化を認める

HDS-R：27点

FIM：50点で基本動作は全て全介助

排泄はアテント対応

長時間の離床は困難であり食事はベッド上で摂取

ROM：上肢→肩関節の屈曲制限(右<左)

下肢→左股関節80° 左足関節0°

GMT：上下肢2 体幹2

食形態：常食 米飯 普通茶をベッド上にて自己摂取



※写真はイメージです



就労支援とは

通常の事業所に雇用されることが困難な
障害者につき、就労の機会を提供すると
ともに、生産活動その他の活動の機会の

力の向上

勉強会

チームに分かれて様々なテーマでスキルアップ
お互いに高めあう機会となっています

LINEを使って情報共有した 取り組み



当院で提供している栄養補助食品

- ◆メイバランス ブリックゼリー
 - ・350Kcal/220g
 - （当院では半分にして提供している為、175Kcal/110g）
 - ・10種類の味がある。

- 【一本あたり（1/2量）】
- ・エネルギー：350Kcal（175Kcal）
- ・タンパク質：12.0g（6.0g）
- ・食物繊維：4.2g（
- ・13種類のビタミン配合
- ・亜鉛6.0mg、鉄1.2mg





リハビリテーション科
に対する声

【利用者様からの声】

チームワークが良い

個々に応じたリハビリが楽しい

気さくな方が多く緊張せずリハビリできた

明るく、人を元気にしてくれる

【在職者からの声】

職場はとてもアットホームで、中途スタッフである私に対しても手厚くサポートしてくださる、あたたかな雰囲気の中すんなり馴染むことができました。理学療法士というと男性が多いイメージがあるかもしれませんが、私が勤めている本山リハビリテーション病院では女性がとても多いので女性にとっても働きやすい環境だと思います。

